

## ⚡ バッテリーあがりによる海難が増加しています!

要注意

### ● 海上ではバッテリーあがりになると帰港できない状況になります

**事例** 海上で機関を停止し、漁探や電動リールを使用しながら釣りをしていたところ、バッテリーがあがり、機関を起動することができず、帰港できなくなった。

▶ 平成27年は33件、平成28年は**51件発生!**



機関を停止し、GPSや魚群探知機等の電源として、機関始動用バッテリーを使用すると、バッテリーあがりにつながります!  
(アクセサリ専用のバッテリー等を活用して下さい。)

## ⚡ バッテリーのチェック方法について

### ● 出港前には必ずバッテリーのチェックをしましょう!

- ① ケーブル端子接続部の緩みや腐食がないことを点検
- ② 電圧の確認 (バッテリーチェッカーで確認! : **12.6V以上**で良好)
- ③ 液量の確認 (液量をUpper LevelとLower Levelの間に保ちましょう)
- ④ 電解液の比重確認 (**1.25以上**で良好)

※ ③、④については、メンテナンスフリーのバッテリーでは点検できません



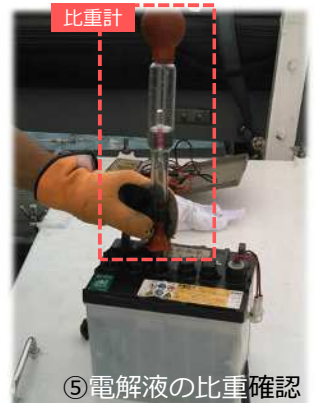
① 端子接続部の確認



② 電圧の確認



④ 液量の確認



⑤ 電解液の比重確認

### ● おかしいと思ったら・・・

- ▶ 端子の増し締め、充電、蒸留水の補充、バッテリーの交換を行いましょう!  
⇒作業を行う際は、バッテリーの取扱説明書に従って作業しましょう。  
※メンテナンスフリーのバッテリーには、蒸留水の補充はできません。

## ⚡ バッテリーの交換時期等について

### ● バッテリーの寿命について

- ▶ 概ね2~5年ほどが寿命といわれていますので定期的に交換しましょう!  
⇒使用頻度が少ない船舶のバッテリーは、2年以内で劣化するケースもあります

### ● アクセサリ専用のバッテリーを搭載することを推奨します。

- ▶ 「ジャンプスターター」(バッテリーがあがった際に、応急措置として機関を始動できる機器)を船内に備え置くことも有効です。